

## 健康診断について

### ■健康診断の結果について

基準値は+4です。+4の項目は諸臓器なら正常、ウイルス、細菌、真菌、寄生虫なら感染していないか、感染していても体に悪影響がないと判断します。癌、白血病なら陰性、食物なら合っているの、食べても構わないと考えてください。+で2桁の項目の基準値は+40です。

基準値より低い項目は、ウイルスに感染しているとか、臓器に病変があるとかで、様々な気になる症状が現れているか、将来あらわれてくる危険性があります。食材では、食べ続けると、免疫力低下の原因になります。

ウイルス、フィラリア、食物アレルギー、不妊去勢手術の必要性については、別紙を参照してください。

食物が合っていないと、皮膚の痒み、脱毛、脂漏性皮膚炎、細菌感染、真菌感染などの皮膚疾患、口内炎、口臭、嘔吐、下痢、軟便、便秘などの胃腸障害、膀胱炎、腎炎、結石障害、多飲多尿、血尿、頻尿、乏尿、尿毒症などの泌尿器疾患、肝炎、膵炎、糖尿病など、加齢とともに、おこり易くなります。

骨髄、胸腺、副腎、甲状腺が低いときは、癌があるか、エイズウイルスや白血病ウイルスに感染しています。骨髄、胸腺、副腎、甲状腺が正常でも、前癌細胞は存在していることがあります。前癌細胞は、正常細胞から癌細胞に移行するときに出現します。前癌細胞を放置すると、間違いなく癌細胞に変わっていきます。PRA検査は西洋医学の検査よりずっと早期に癌を発見できます。癌発見で治療するよりもっと早く、前癌細胞検出段階で治療を始めるとよりはやく、完治します。

ボルナウイルスやサイトメガロウイルス、ヘルペスウイルス、ヘモフィルスは神経細胞に持続感染します。小脳が低い時は、癲癇のような症状があったり、四肢に問題があったりしていることが多いです。

エプスタインバーウイルスは、体のどこに不具合がおきてもおかしくないウイルスです。しかも、慢性の症状が多く、治りのくいです。腫瘍ウイルスでもあります。

### ■身体に合った餌を

餌は、合っている食材だけで作ったフードを購入してください。検査時点では、基準値なので食べても大丈夫とでている食物でも、毎日食べ続けると、合わなくなる場合もあります。おやつも、合った食材だけで、出来れば毎日ではなく時々与えるくらいにしてください。合ったフードを1粒あたえるだけでもいいです。市販のフードは食材が合っても製造方法や添加物によっては合わない時もあります。持参されれば適合しているか検査できます。犬猫の食材は80%以上表示する義務があります。残り20%以下は何が含まれているかわかりません。

食材はご依頼があれば、ほぼ全てを調べることができます。

疑問の点はお尋ねください。